

JRCA 2026 年度 第 5 回 理事会 議事録

2026 年 5 月 21 日（木）19:00～ Web 会議

参加者： 福永会長、斉藤、白井、石城、
佐藤、中島、伊藤、倉林、津田

1.2026 年度 全日本ラリー選手権 第 3 戦「YUHO Rally 飛鳥 supported by トヨタユニテッド奈良」について

- ・ ギャラリー来場が多く、新設コースも含め概ね高評価。難しい道・長い距離・住居前通過など挑戦的設計に驚きと高評価。選手からもチャレンジングで好評であった。
- ・ サービスパークは広く動線良好、安全マージン確保で評価高。JRCA の YouTube 再生数は約 42,000 回。
- ・ レッキ中の「譲らない」行為など従前からのトラブルが一部で発生。主催者案内のレッキ時間（6 時開始、7 時途中帰る）情報未把握の選手がおり、初参加・不慣れな選手ほど前方になるなど混乱が発生していた為、WRC 同様の時間指定が必要と思われる。
- ・ レッキ受付と参加確認を同時に実施した。参加確認も実施しているためライセンスホルダー全員が受付に来なければならないところ、レッキ受付だけと勘違いして一人で受付に来てしまう事案が複数見られた。特別規則書の表現を丁寧にするのと同時に、参加者も特別規則書の熟読をするよう心がけてもらいたい。
- ・ セレモニアルスタートの付近 TC は極めて狭く、もう少し安全確保のためにもスペースが必要と感じた。
- ・ 一車線区間に TC が設定され譲り合い困難の為、TC エリアへ車両が入り込み他選手の走行を妨げる恐れがある為、TC 位置と待機スペースの再設計（5 台以上の待機と回避可能な動線確保）、ウォームアップエリア設置の検討と特別規則書への明記が必要。
- ・ ウォームアップエリアがなく、選手が自主的に配慮。JN1 クラスが模範的に TC 付近までウォームアップなしで進行。ルール化が不十分で TC 入り込みや譲りで揉める可能性。特別規則書への明記など制度化の検討が必要。
- ・ 大会ごとのレッキ受付と参加確認のタイミング差が混乱要因。全日本として受付プロセスのある程度統一を「申し合わせ」で検討。今回の問題点と改善策を文書化し JAF/JGR へ提案したい。

2.「ペナルティ」について

- ・ ペナルティは過去の事例ではなく、明文化された規則と範囲に基づいて判断すべき。
- ・ 違反認定は、オフィシャルの現認を唯一の根拠とし、証拠不在の異議は受理すべきではない。

3.その他

- ・観客数の可視化要望が再度上がる。
- ・スポンサー活動・人気動向把握に有効なため、シーズン中でも閲覧可能な枠組みを検討する。
- ・地域社会との共存
- ・ラリー開催には、地域住民へのより深い配慮とコミュニケーションが不可欠。
- ・コース周辺住民には具体的で丁寧な説明が求められる。
- ・選手は公道走行時、「見られている」意識を持ち、模範的な運転を徹底すべき。
- ・緊急時に救急隊がアクセスできるよう、集落をコースにする際は事前の体制構築が必須。

4.次回理事会について

- ・JRC Rd.4 久万高原ラリー（6/18～20）以降で設定。候補日：6/29・6/30・7/2（7/1 は新規運営委員会のため除外）。6/30 または 7/2 で出欠確認予定。

以上